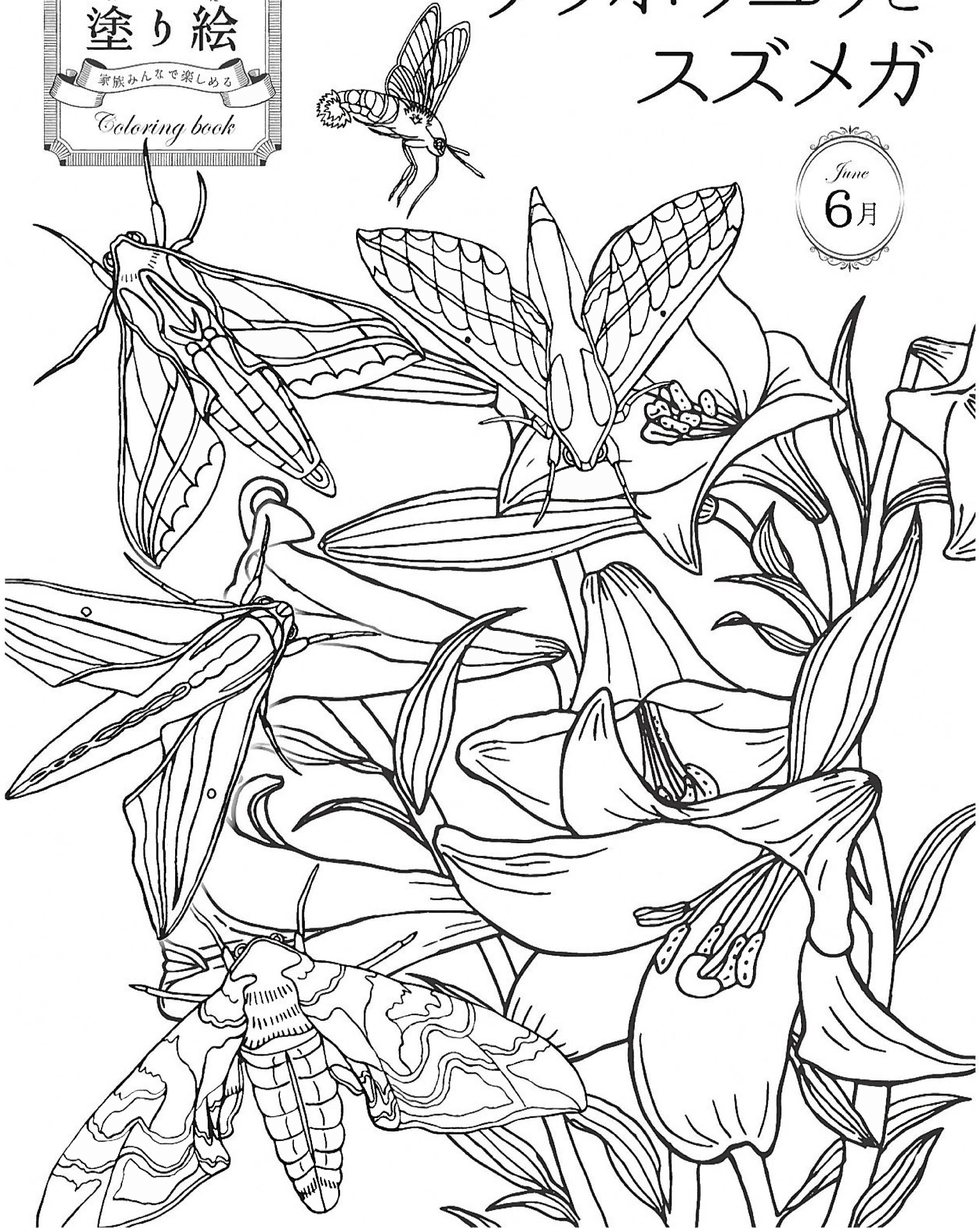




かわぐちし はな しろ かぶん はこ
川口市の花、白いテッポウユリと花粉を運ぶスズメガ

テッポウユリと スズメガ



テッポウユリ *Lilium longiflorum*

赤山塗り絵



テッポウユリは、川口市の市の花です。昭和41年(1966)に、翌年開催の埼玉国体にあわせて制定されました。他の候補としてあがったのは五色桜、桜草、椿、百合、チューリップ、水仙など。選考の結果、明るく清らかなたたずまいと市内で栽培されていること、そして他県や他の市町村の花に指定されていないことから選ばれました。

もともとは沖縄や台湾を原産としているテッポウユリですが、昭和14年(1939)に川口で花卉栽培を営んでいた風間喜助さんが沖縄県伊良部島の自生テッポウユリの球根を買い付け、川口市内での栽培に成功したのが本州に定着する契機になりました。今では関東地方でもたくさん栽培されているテッポウユリも、多くはここ川口から旅立った球根の子孫なのです。



市内のマンホールの鋳物製ふた

市の花に指定されている関係から、市内では前川東小学校、在家中学校、岸川中学校、南平保育園の校章・園章として使われているほか、市内各所のマンホールの鋳物製ふたにテッポウユリの意匠が使われています。

花言葉は純潔・甘美。長い喇叭形の花を横から見た印象が鉄砲を思わせたのでテッポウユリと呼ばれますが、とても優美なたたずまいをしています。川口市内での見所はグリーンセンターに100株ほど植えられており、花の見頃は6月上旬から半ばくらいまでです。

■他にはこんな所にも…



川口商工会議所女性会のパッチのモチーフにも使われています。

スズメガ *Sphingidae*



スズメガの幼虫

スズメガはイモムシの大きくなったすがたです。いまではいろんな蝶や蛾の幼虫をイモムシと呼んでいますが、もともとはサトイモやサツマイモの葉を食べるスズメガの幼虫をさしていました。世界に1200種類ほどいるうち、川口市内では7種類が確認されています。



キイロスズメガ



ベニスズメガ



ホシホウジャク

【スズメガ】6~7cm位で灰色から褐色、昔の人から小さなスズメのようなのでスズメガと呼ばれました。

【ホシホウジャク】5~6cm位、焦げ茶色で後方は黄色みがかっています。ハチに似ているのでホウジャク(蜂雀)と呼ばれます。

【ホシヒメホウジャク】4~5cm位、やや小柄なので名前に「ヒメ」が入っています。

【エビラガスズメ】8~10cm、灰色か茶褐色で胴体に紅色の縞があります。

【セスジスズメ】6~8cm、灰色から茶色、茶褐色で羽根には黒いスジが入っています。

【トビロスズメ】7~8cmくらいで茶色から鶯色 シモフリスズメ、10cmくらいで全体的に灰色、夜に活動します。

素早い羽根の動きでホバリング(浮いた状態)が得意で、ハチドリのような蝶と呼ぶ国(ブラジルなど)もあります。浮いたまま様々な花の蜜を吸うため、エビラガスズメなどは口の部分が体全体より少し長い、11cmにも伸びるようになっています。カラスウリやハマユウ、コスモスやラベンダー、そしてテッポウユリなど様々な花の蜜を吸いに来ます。

ミツバチが蜜を集めるときに花粉を身に付けて飛ぶのと同じように、伸ばした口のまわりに花粉を付けて次の花へと飛ぶことで、花粉を運んで植物が増えるのを手伝っています。

スズメガは幼虫が色々な草花を食べるので、農家にとっては害虫ですが、植物を増やす重要な役割も果たしているのです。